

N F 通信

ice arther

Vol.15



column

01

専門家コラム

西村医院 小児科医師 瀧上 佐智子さん



コロナ感染症が5類（インフルエンザと同等な扱い）になり子どもがかかりやすい感染症がまた息を吹き返した感じがします。換気に注意し三密をさけて手指衛生に気をつけるとコロナ以外の感染症も予防できる事もわかりました。今年の夏は手足口病が大流行しました。猛暑もようやく落ち着き、朝晩空気が冷たくなる秋から冬に子どもがかかりやすい病気をまとめてみました。

①RSウイルス感染症

咳鼻水発熱といった一般の風邪と初期症状は同じでほとんどが1週間くらいで自然に治るのですが、乳幼児特に3歳以下は細気管支炎や肺炎を合併して重症化する事が多く呼吸が苦しくなります。特別な治療法はありません。こまめな水分摂取が対処療法になります。いつもと違う苦しそうな咳は小児科を受診して下さい。

②マイコプラズマ肺炎

RSとは違い幼稚園児から小中学生、大人がかかりやすく長引く感染症です。倦怠感や頭痛、発熱が出現した後数日経ってから咳が始まります。咳はどんどん強くなり解熱した後2～4週間続く事もあります。マイコプラズマに効く抗生物質で治療しますが、最近は耐性菌が増えている為、処方された抗生剤が効かない場合は別の抗生剤に変更します。ダラダラとした発熱としつこい咳が見られたら医療機関を受診してください。

③ノロウイルス感染症

涼しくなってくると流行する腸管の感染症です。主な症状は下痢と嘔吐です。数日で治る事が多いのですが嘔吐下痢が長引き脱水を起こす事があります。感染経路が経口感染だけでなく、くしゃみや咳などからの飛沫感染、物や手に付着したウィルスを触ってうつる接触感染があります。吐物の処理に感染対策を徹底します。糞便からは3週間以上ウィルスが検出される事もあるのでおむつ交換の後、手洗いを徹底する事も大切です。

子育てコンシェルジュより

あるパパが、子どもに「読んで」と渡された絵本を読みはじめました。『おだんごばん』というロシア民話。おいしそうに焼けた“おだんごばん”が、「食べられたくない。」と、逃げ出していくお話です。いろいろな動物に出会って逃げての繰り返しを楽しんでいた親子ですが、最後まで読んで、パパいわく「衝撃のラストにびっくりした。」そうです。「え～！食べられちゃうんだ・・・。」と。でも、子どもは、「食べちゃった！」と嬉しそう。パパはおだんごばんに感情移入していたけれど、息子さんは食べたくて追いかけている側だったのですね。

同じ絵本でも、こんなにとらえ方が違うのですね。やはり、絵本はおもしろい、親子一緒に楽しむととってもおもしろいと思ったエピソードでした。

